



# ANNUAL FORECAST FOR 2026

米投資運用大手会長が大胆予測!

トランプにより“米国以外”が再び偉大に!?  
どうなる? 2026年の世界経済

米投資運用大手ロックフェラー・インターナショナルの会長を務めるルチル・シャルマ氏が、今年の経済動向の展望を語った。氏は、「トランプ関税」への対処に振り回された昨年とは異なり、2026年は各国の関心事が、中国によるダンピング（不当廉売）への対抗へとシフトし、新たな貿易摩擦が表面化すると予測。また、トランプ大統領の政策路線に危機感を抱く世界各国が、自国の競争力を高めようと奮闘する結果、“米国以外”で経済改革が進むという大胆な見方や、世界的な規制緩和への動き、さらに、健康意識の高まりによる「飲酒のピークアウト」といった消費トレンドの変化まで、多角的な視点から最新の世界経済を俯瞰する。



番組ホスト

**ファリード・ザカリア**

インド出身のジャーナリスト、国際問題評論家。イエール大学卒業後、ハーバード大学で博士号を取得。国際政治経済ジャーナル「フォーリン・アフェアーズ」編集長、ニュース週刊誌「ニューズウィーク」の国際版編集長を経て、2008年6月よりCNNで「Fareed Zakaria GPS」の番組ホストを務める。1964年、ムンバイ生まれ。



ゲスト

**ルチル・シャルマ**

インド系アメリカ人の投資家、作家。投資会社「ブレイクアウト・キャピタル」の創設者兼最高投資責任者で、米投資運用大手「ロックフェラー・インターナショナル」会長。数々の経済誌に寄稿する著述家でもあり、現在は「フィナンシャル・タイムズ」の寄稿編集者兼コラムニスト。2024年に「資本主義は何を間違ったのか」刊行。インド・ウェリントン出身。



Listening Quiz

**59** 中国によるダンピングに世界各国が反発強める

**Fareed Zakaria** As we begin the new year, we always love turning to Ruchir Sharma for insights about where the economy is headed. He will release his annual top 10 trends in the *Financial Times* tomorrow, and he's here to give us a preview. Ruchir is the chairman of Rockefeller International,\* founder of Breakout Capital, and the author of *What Went Wrong with Capitalism*.

Welcome, Ruchir. When I go to Europe and you go to Southeast Asia, what you're struck by is that they're very worried about cheap Chinese exports flooding their countries and destroying their manufacturing capacity. So the thing that Americans are worried about, now the Europeans and the Asians are worrying about.\*



**Ruchir Sharma** Yes, because they're really cutting prices, which is hurting many countries out there. What happened in 2025 was that all the energy of the countries was very focused on fighting America's trade war; the tariffs were going up, so they were very focused on that, and they couldn't take on two superpowers at the same time.

Now, it seems to me that the tariff war that America was waging—partly because of the affordability crisis,\* that seems to be, sort of, going more in the background. So now, one of my big trends of 2026 is that these countries—and I see the evidence everywhere; I travel to countries like Indonesia, France—they're all now complaining about the fact that their economies\* are getting so badly hit by the glut of Chinese exports coming into their

**turn to A for B:**

Bを求めてAに頼る、尋ねる

**insight:**

洞察、見識

**be headed:**

(ある方向・場所へ) 進んでいる、向かっている

**annual:**

年1回の、年次の

**chairman:**

会長、議長

**founder:**

創設者、創業者

**be struck by:**

～に心を打たれる

**flood:**

～にあふれる、氾濫する

**manufacturing capacity:**

生産力、製造能力

**hurt:**

～に害を与える、悪影響を及ぼす

**focus A on B:**

A(力・注意など)をBに集中させる、向ける

**tariff:**

関税

**take on:**

(手ごわい相手)に挑戦する、～と対決する

**superpower:**

超大国

**wage a war:**

戦争を行う、遂行する

**affordability:**

価格の手頃さ、手の届く価格であること

**the background:**

背景、目立たない所

**complain about:**

～について不満を表す、不平を言う

**glut:**

(市場における商品の)供給過剰、だぶつき

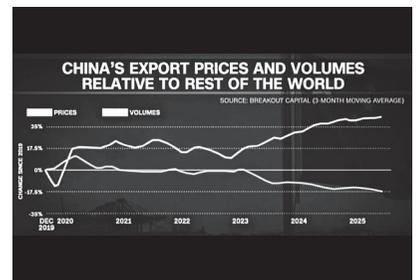
\*お聞き苦しい箇所がありますが、放送時のものです。ご了承ください。

**ファリード・ザカリア** 新年を迎えるにあたり、経済の見通しについてルチル・シャルマ氏の見解を伺うのを、私たちはいつも楽しみにしています。明日、彼はフィナンシャル・タイムズ紙で毎年恒例の「トレンド・トップ10」を発表する予定ですが、今日は一足先にその概要を教えてください。ルチルさんは、ロックフェラー・インターナショナルの会長で、ブレイクアウト・キャピタルの創設者、そして『資本主義は何を間違ったのか』の著者でもあります。

ようこそ、ルチルさん。私はヨーロッパに、そしてあなたは東南アジアによく行かれますが、(共通して)強く印象に残るのは、どの国でも市場に安い中国製品があふれ込んでいて、自国の製造能力がつぶされるのではないかと人々が危惧していることです。つまり、(これまで)アメリカ人が抱えてきた不安を、今やヨーロッパやアジアの人々も持つようになってきているということです。

**ルチル・シャルマ** ええ、中国は価格を本当に大きく下げているので、多くの国々が打撃を受けています。2025年、各国はすべてのエネルギーをアメリカとの貿易戦争に対処するために費やしました。関税が引き上げられる中、各国はそれだけに集中し、同時に2つの超大国を相手にする余裕はなかったわけです。

ところがここへきて、アメリカが仕掛けてきた関税戦争は——それは物価高騰の危機のせいもあって、後景に退きつつあるように思えます。そこで、私が2026年の重要トレンドの1つとして挙げるのは、こうした国々が——私はインドネシア、フランスなど訪れた先々でその証拠を目の当たりにしていますが——そうした国々が、自国の市場に過剰供給される中国製品によって、自国経済が大打撃を受けていると口をそろえて不満を言っていることです。雇用が失われ、製造業の縮小にもつながっています。



ここ5年ほどの中国による輸出価格と輸出量を見ると、輸出量が2023年後半から急上昇しているのに対し、輸出価格は2023年頃から下落し続けていることがわかる。2026年はこうした中国によるダンピングに対し、世界各国からの反発が強まるだろうとシャルマ氏は予測する

#### ■ Rockefeller International

米国の伝説的な実業家ジョン・D・ロックフェラーの流れを汲む、ロックフェラー・キャピタル・マネジメントの国際部門。シャルマ氏はその会長を務める。主に世界の富裕層や機関投資家向けに、グローバルな視点での資産運用や投資戦略のアドバイスをを行っている。

☞ So the thing that Americans are worried about, now the Europeans and the Asians are worrying about.

この文は倒置文で、〈OSV〉という語順になっている。目的語(O)のthe thing that Americans are worried aboutが先に来て、そのあとに、主語(S)the Europeans and the Asians、述語動詞(V)are worrying aboutが続くという形になっている。

#### ■ the affordability crisis

「購買力危機」という意味で、ここでは「物価高騰(インフレ)によって、市民が日常生活に必要なものを買う余裕さえなくなりつつある状態」を指す。affordabilityとは「価格が手頃であること・手が届くこと」といった意味であり、それが危機にさらされているということ。